

第7次 雨竜町社会教育中期計画

(令和5年度～令和9年度)

雨竜町教育委員会



北海道・雨竜町

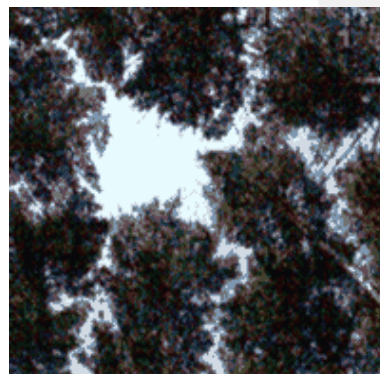
雨竜沼湿原のあるまち…



暑寒別天売焼尻国定公園
ラムサール条約湿地
「雨竜沼湿原」



町の花
「ダリア」



町の木
「とどまつ」

第7次雨竜町社会教育中期計画の策定にあたって

人口減少や少子高齢化が進み、社会の在り方が大きく変わりつつある中、新型コロナウイルス感染症の影響は、教育を取り巻く環境を大きく変化させました。

先行き不透明で予測のつかない状況の中、すべての町民が生きがいを持って幸せを実感できる社会を実現するためには、生涯学習を推進する上で社会教育が果たす役割が非常に重要と考えます。

そうした中、本町においては、「明るい未来を描く教育・文化・スポーツのまちづくり」を基本目標のひとつに掲げた「雨竜町振興基本計画」が平成28年度から10年間の計画としてスタートしており、その計画に連動すべく、今般、「雨竜町子どもの読書活動推進計画」を統合させる形で「第7次雨竜町社会教育中期計画」を策定いたしました。

また、平成30年度からは、雨竜町立学校に「学校運営協議会」が設置されたことで、社会教育が学校教育と連携協力しながら、日本の未来を担う子どもたちの健やかな成長を目指すことは、本町教育行政において益々重要な役割を社会教育が担うものと考えます。

今後、社会教育については文化やスポーツの振興を通じ、地域ぐるみで「いつでも・どこでも・だれでも」そして「みんないきいき・のびのび」と生涯全般にわたって町民の皆さんが学習活動に参加できるよう本計画を基に推進して参ります。

終わりに、本計画策定にあたりご尽力いただきました雨竜町社会教育委員各位に心より感謝を申し上げますとともに、町民の皆様、関係各位の雨竜町における社会教育に対して今後も更なるご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年3月

雨竜町教育委員会

教育長 糸谷 尚徳

雨竜町民信条

わたしたちは、先人の開いたゆたかな土と水をうけつぎ、誇りと責任をもって、よりよい雨竜町をつくります。

- 1 心もからだもすこやかに、りっぱに務めを果たします。
- 1 明るく仲良く話し合い、楽しい家庭をつくります。
- 1 きまりを守り助け合い、住みよい社会をつくります。
- 1 未来をになう青少年を、みんなの責任で育てます。
- 1 郷土を愛し、文化を高め豊かな産業の町をつくります。

(昭和44年6月20日制定)

雨竜町社会教育目標

生き生きと学びつづける社会と、香り高い文化の創造を目指し、健康で生きることの喜びを感じ、住み良い豊かな郷土をつくることを願って、この目標を定めます。

- ・町民が生きがいと活力を得ることのできる生涯学習の推進を目指します。
- ・ふるさと雨竜を愛し、豊かな心を培うため社会教育の充実に努めます。
- ・施設の整備や効果的な活用を考え、いつまでも健康でいられるよう生涯スポーツを推進します。
- ・雨竜の歴史や、伝統芸能と文化を未来へ伝承します。

目 次

第1章 第7次中期計画の基本的な考え方

- 1. 計画策定の意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2. 基本的考え・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3. テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 4. 構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第2章 第6次中期計画における反省評価


- 1. 乳幼児教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 2. 青少年教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 3. 成人教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 4. 高齢者教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 5. スポーツ振興・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 6. 芸術文化振興・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 7. 第2次子どもの読書活動推進計画における各種取り組みと反省評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 8. 生涯学習推進と社会教育指導体制・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

第3章 第7次中期計画における現状課題及び推進目標・施策


- 1. 乳幼児教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 2. 青少年教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 3. 成人教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 4. 高齢者教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 5. スポーツ振興・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 6. 芸術文化振興・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 7. 子ども読書活動における現状課題と推進計画・・・・・・・・ 11
- 8. 生涯学習推進と社会教育指導体制・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 9. 施策の体系・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

資料

- 第7次雨竜町社会教育中期計画策定について（諮問）・・・・・・・・ 14
- 第7次雨竜町社会教育中期計画策定について（答申）・・・・・・・・ 15
- 第7次雨竜町社会教育中期計画策定経過・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- 第7次雨竜町社会教育中期計画策定委員名簿・・・・・・・・・・・・ 17



第1章 第7次雨竜町社会教育中期計画の 基本的な考え方



1. 計画策定の意義

雨竜町における社会教育は、平成28年に策定された「雨竜町振興基本計画」において、未来に希望もてるまちづくりへの施策の一つとして、仲間とふれあい笑顔あふれる生涯学習社会の形成が挙げられており、第6次社会教育中期計画（平成30年度～令和4年度）に基づいて働きかけを行ってきたところです。

この間、地域における人口減少や少子高齢化はさらに進行し、地域産業の担い手不足や経済の衰退、コミュニティ機能の低下などが危惧されています。さらにSDGsの取り組みをはじめとした社会情勢の変化や、新型コロナウイルス感染症の拡大は、町民生活に大きな変化を及ぼしています。

生涯を通じて学習し学びにおいて自己を豊かにするため、社会教育分野が果たす役割は非常に大きく、社会の変化や人々の学習意欲に対してきめ細やかな配慮と対応が必要であり、関係機関・団体と連携協力を積極的に図り各種事業を通じて生涯学習を推進していくことが求められています。

このことから、従来の計画の反省を踏まえ本町の社会教育の現状を分析し、課題を的確に把握し、学習活動に参加できる人づくり・町づくりを目指して、本町の生涯学習社会の構築と推進をするために本計画を策定します。

2. 基本的考え

雨竜町における社会教育は、平成5年度より「社会教育中期計画」を策定し、その後5年ごとに社会の変化に応じた見直し等を行い第1次～第6次まで進めてきたところです。今回「第7次社会教育中期計画」の策定にあたっては、前計画を反省評価し、雨竜町の現状や特性を考慮し、「雨竜町振興基本計画」や各種推進計画等との整合性を図りながら策定しました。この計画の期間は令和5年度から令和9年度までの5年間とします。ただし、単年度の事業推進計画も立案し前年度の反省と社会情勢の変化に対応すべく、見直しや改善を図りながら推進していくものとします。また、各分野・領域において下記の項目を念頭に置き策定することとします。

- ともに学びの輪が広がる社会教育
- 誰もがいつまでも学び続けることができる社会教育
- 社会教育行政として学ぶ者への援助・協力・推進ができる社会教育

3. 第7次中期計画のテーマ


「明るい未来を、描くマチ

～であい・まなびあい・よろこびあい・うりゅうの社会教育～

まちづくりの基本計画である「雨竜町振興基本計画」及び本町の教育の基本方針を示す「雨竜町教育大綱」での基本目標となっている「明るい未来を描く教育・文化・スポーツのまちづくり」をベースに、すべての町民がさまざまな学習活動を行うことで充実した毎日を送り、豊かな心を育み、人と人とが共にまちを盛り上げて欲しいとの願いを込めて本計画のテーマを設定します。

4. 構成

- (1) 第6次雨竜町社会教育中期計画の反省評価と雨竜町振興基本計画や各種計画との整合性を図り現状と課題を認識し推進目標と施策を示しております。
- (2) 令和2年度に策定した「第2次雨竜町子どもの読書活動推進計画」の計画期間が令和4年度をもって終了となることから、第7次雨竜町社会教育中期計画に統合することとし、今回から本計画の中で読書計画の反省評価、現状と課題、推進目標と施策を示していきます。
- (3) 生涯区分は下記のとおり区分し、全区分を対象とした「スポーツ振興」「芸術文化振興」のほかに、新たに0歳から18歳までを対象とした「読書活動」を設定し取り組むこととします。
○乳幼児（保護者妊婦含む） ○青少年 ○成人 ○高齢者
- (4) 本町における生涯学習推進のため社会教育行政が担う役割と各社会教育施設についても現状課題と方向性を示しております。

The page features decorative geometric shapes in the top-left and bottom-right corners. The top-left corner contains several overlapping, semi-transparent polygons in shades of blue, green, and red. The bottom-right corner contains a cluster of overlapping, semi-transparent polygons in shades of grey and light blue.

第2章 第6次雨竜町社会教育中期計画に おける反省評価

1. 乳幼児教育における反省評価

○キッズクラブ教室内容の充実

年間12回開催し、親子ともに楽しむ運動を多く盛り込み、各家庭でも実施可能なもので容易な運動を紹介している。クリスマスや節分などの季節イベントも行っている。

令和元年度より住民課に事業を移管し、現在も住民課で事業を継続中。

○親子の遊び場の提供と子育てサークルの活動支援の強化

平成29年に開設したメモリアルパークキッズエリアを中心に、子どもの遊び場を集約することで保護者間の交流にも寄与した。

○乳幼児期における読書活動の推進

従来から行っているブックスタート事業に加え、コロナ禍の状況においては「ステイホームでステイ読書」事業を展開。

さらに、令和4年度より各年齢層ブックスタート事業により乳幼児期だけでなく幅広い年齢層に本に触れる機会を増加させた。

○ウッドスタート事業の継続と木育推進

1歳6ヶ月の幼児を対象としたウッドスタート事業を雨竜高等養護学校の協力のもと継続して実施した。対象者全員へ積み木をプレゼントし、好評を頂いている。

2. 青少年教育における反省評価

○親子のふれあいを高めるための事業展開

ちびっこチャレンジ教室のメニューに親子での体験教室も組み込み実施している。コロナ禍で町外での開催に制限がある中で、町内での教室実施が多くなったことで親子で参加しやすい状況となっている。

○関係団体と連携した青少年活動の充実

町子ども会育成連絡協議会と連携し、青少年対象の事業を展開している。また夏休みにはラジオ体操事業を行い、子どもの早寝・早起きを始めとした規則正しい生活リズムを達成する一助となっている。

○各少年団活動の支援

柔道は休止となったが、剣道、バレーボールに加えフットサルがスポーツ少年団に新たに加入。改善センターや小中学校体育館を放課後や休日に開放するなど活動場所確保に努めている。

また、各少年団指導者資格取得に対する支援を行っている。

○放課後児童対策の充実

平成14年度より学童保育が設置され、放課後児童の活動の場として機能。また、平成26年度よりジュニアスクールを開設し、小中学生に対し学習の機会

を提供している。

○地域リーダー養成研修事業の推進

コロナ禍により中止となった年度もあった。

初級リーダー講習会では小学5～6年生を対象に他市町と交流を図っている。さらにシニアリーダー研修会では中学生が参加し他市町と交流を図っている。しかし、参加者数については減少傾向にある。

○ちびっこチャレンジ教室等の各種体験事業の充実

多種多様な体験活動ができることで保護者からの評価も高い。また参加数に応じて表彰する制度もあり、参加者のモチベーション維持にも繋がっている。近年は町外での体験活動を制限しているが、今後は徐々に町外での活動を増やしていきたい。

○少年期における読書活動の推進

「ステイホームでステイ読書」事業、各年齢層ブックスタート事業を展開し本に触れる機会を増加させた。また、「雨竜町子どもの読書活動推進計画」に基づき、改善センター図書室や学校図書室に定期的に新刊を導入し、読書意識の向上を図るとともに、古い図書は町民文化祭で無料配布するなど更なる推進を図り、読書活動の充実を目指したい。

3. 成人教育における反省評価

○団体やサークル活動の育成支援

既存の団体・サークルについては、コロナ禍や会員の高齢化等の理由により活動休止や活動を制限した団体があるものの、多くの団体は継続した活動を行っている。町スポーツ協会や町文化連盟等の関係機関と連携し支援を行っている。

○各種社会教育事業の充実

家庭教育講座やイングリッシュルームなどの事業を展開し話題を提供したり、教養を深めている。

○生涯にわたる学習に取り組む環境づくり

公民館を中心に各団体・サークルの活動の場を提供している。高等養護学校にて行われる学校開放講座が近年は実施されなくなり、成人に対する生涯学習への機会が充分とは言えない。

○関係機関との連携強化による事業展開

町文化連盟及び町スポーツ協会の活動や事業開催の相談に対し指導・助言を行い活動に対する活性化に努めた。

○女性に対する学習機会の充実

レディーススクールを開催し、身近な問題についての講座や創作活動等様々な教室を開設し好評を得ている。体力ぐんぐんアップ教室では冬期間の運動不足解消と健康増進に努めている。

4. 高齢者教育における反省評価

- いきいき学園大学で幅広い学習機会の提供
年10回開催。毎回様々な分野の講師を招き、講演による学習機会を提供するとともに、クラブ活動を通して交流機会を提供している。
- レクリエーションやサークル活動の支援
展示会の開催や文化祭への出展、芸能発表で披露の場を提供している。
- 知識や技術を活かした社会参加の推進
いきいき学園大学で得た知識等を老人クラブなどの地域社会で活かしている。

5. スポーツ振興における反省評価

- 各種スポーツ団体との連携強化と支援
コロナ禍においてはスポーツ協会加盟団体が実施する事業の中止が相次いだが、令和4年度では復活した事業もあり、少しずつ以前の状況に戻りつつある。
- スポーツ指導者の育成
指導者資格取得のための研修参加費用の補助を行い、各種スポーツにおける指導者の育成を図っている。
- 軽スポーツやレクリエーションの紹介と普及
いきいき学園大学やちびっこチャレンジ教室、また北海道日本ハムファイターズとの連携事業の一環として、様々な軽スポーツやレクリエーションを紹介している。
- 健康維持や健康増進の機会を充実する
ヘルスアップ教室や体幹強化プロジェクトで家でもできる体操やストレッチを実践し、運動不足に陥りやすい冬期間を中心に健康増進・運動不足解消に努めた。
令和4年度からは、「身体に良いことやってみ隊」と名称を変更し、更なる健康増進に努めている。
- スポーツイベント等の開催による連帯意識の高揚促進
スポーツフェスティバルではかつては町内会での連帯感を高める重要な役割を担っていたが、コロナによりここ数年開催不可となっていることに加え、住民の減少・高齢化により、今後継続して実施出来るかが不透明な状況となっている。

6. 芸術文化振興における反省評価

○芸術文化団体の育成支援

芸術文化団体もコロナ禍で活動が制限されるなか、可能な範囲で活動を続けており、少ないながらも発表の場において成果を疲労しているが、会員の減少や高齢化で活動規模が徐々に縮小されてきている。

○芸術鑑賞会・講座の定期的開催

感染対策を実施しながらではあるが、小・中学生は新十津川町との共同事業により様々な芸術文化を鑑賞している。未就学児は保育園を会場に演劇等の鑑賞機会を設けている。

○文化財の保存保護と農業資料室整備

雨竜沼高層湿原帯や史跡公園内アカマツ並木保護樹木等、関係機関と連携しながら保存保護を図る。農業資料室、農業資料保存館を管理し必要に応じて展示物を公開している。

7. 第2次子どもの読書活動推進計画における各種取り組みと反省評価

(1) 家庭における読書活動の推進

【具体的な取組】

- 子どもの読書週間の定着に向けた「家読」の取組の推進
- 保護者による絵本や物語の読み聞かせ
- 生活リズムチェックシートの活用

【反省評価】

- ・コロナ禍により子どもの外出が制限され、自宅で過ごすことが多くなっている機会に、「ステイホームでステイ読書」事業を行い、小・中学生に本を贈呈し読書感想文を書いてもらうことで家庭での読書意識の向上と習慣づけを図ることができた。

(2) 地域における読書活動の推進

【具体的な取組】

- ブックスタート事業の充実
- 子どもの読書活動に関するボランティア活動の場の提供や研修会の工夫
- 「子ども読書の日」や「こども読書週間」における事業の実施や情報提供

【反省評価】

- ・従来より行っているブックスタート事業は、生後10ヶ月の乳幼児を対象としていたが、様々な年代においても読書習慣の定着を図ることを目的に、保育園年中児・小学1年生・中学1年生にも対象を拡大し、書籍を贈呈することで、少しでも読書に興味を持ってもらう取り組みを行った。
- ・読書のきっかけになるよう図書室で選定したオススメ本を改善センターロビーに掲示し、図書室へ訪れたいくなるような工夫を行った。
- ・町民文化祭で古本市を開催し、無償で書籍を配布することで、普段図書室を利

用しない町民にも読書活動の普及啓発を行った。

(3) 学校等における読書活動の推進

【具体的な取組】


- 読み聞かせなどによる本に親しむ活動の充実
- 「朝読書」における一斉読書の積極的な推進
- 学校の教育活動全体を通じて多様な読書指導の展開

【反省評価】

- ・朝学習の時間を活用し、地域から選出された読み聞かせボランティアに絵本の読み聞かせを行ってもらい、学校においても教育活動の向上が図られている。


7. 生涯学習推進と社会教育指導体制における反省評価

- 日々の情報収集、研修会の参加、各種助成事業等の積極的な活用をするなどコーディネータ能力を高め、また関係機関との連携を密にして住民ニーズに柔軟に対応した事業展開を図る。
空知教育局社会教育指導班や空知管内各市町担当職員との連携により協議や情報交換を活発に行っている。また、空知管内や道の各種団体が主催する研修会等に積極的に参加し、事業の企画・実践における職員の資質向上を図っている。
- 各社会教育施設を始めとした教育財産の有効利用を図り地域住民、各団体の学習活動、コミュニティ等活発な活動の拠点となるよう整備や取組を進める。
公民館・改善センター等教育施設については安全に利用できるように定期的に職員が施設巡視を行っている。
地域住民が利用しやすいようにスロープを設置するなど環境整備に努めている。
- 個々の負担にならず空き時間で有効に活動できる組織づくりと世代間交流等による学校・家庭・地域の連携により社会参加活動の推進に努める。
担い手不足により学校・家庭・地域の架け橋となるコーディネーターが不在の状況であるが、学校運営協議会を設置し地域との連携を図っている。
- 今後は少子高齢化や人口の減少により生涯各期に応じた町単独での事業展開が難しくなってくることも予想される。これらの問題を解決するために近隣市町と広域的な社会教育事業を模索する。
単独では開催が難しい事業や効果が見込めない事業については、中空知広域圏や北空知各市町と連携し広域的な事業展開を行っているものの、町内の参加者が少ない事業もあり、効果は限定的である。



第3章

第7次雨竜町社会教育中期計画に おける現状課題・推進目標・施策



1. 乳幼児教育における現状課題と推進計画

【現状と課題】

少子高齢化が一層進む本町では、子育て家庭を取り巻く環境も変化している。乳幼児期は身体・精神の基礎的な人間形成を培う時期として最も大切な時期であるが、新型コロナウイルスにより子育てに関する不安や悩みを持つ保護者が交流する場も限られてしまっており、保護者に対する学習・交流の機会の提供が必要である。

本町における年間新生児出生数は、ここ数年でそれぞれ10名に満たない出生数となり、少子化に拍車がかかった状況である。地域全体で乳幼児期の家庭教育を支えるため、「雨竜町子ども・子育て支援事業計画」との整合性を図り、安心して子育てができる環境をつくる必要がある。

【推進目標】

- 親子のふれあいを深め、安心して子育てができる環境づくり
- 豊かな心身の発達を促進

【主な施策】

- 親子の遊び場の提供と親同士の交流支援
- ブックスタート事業を含めた乳幼児期における読書活動の推進
- ウッドスタート事業の継続と木育推進
- 町保育園と連携したスポーツや芸術鑑賞等の事業展開

2. 青少年教育における現状課題と推進計画

【現状と課題】

現代の子どもの環境は、スマートフォンの利用や SNS の発達、子どもの数の減少で遊び相手がいらないなどの理由によりコミュニケーション能力の低下など青少年の発達過程に大きな影響を与えている。また、新型コロナウイルス感染症の影響により GIGA スクール構想をはじめとしたオンライン環境が急速に普及したこともあり、家庭での活動が多くなりがちである。

このような現状から、学校での教育だけではなく地域が子どもたちの育成を担うことが求められており、関係団体の協力を得ながら各種体験活動・スポーツ活動・読書活動等積極的に展開する必要がある。

また、少子化が進むことで、部活動や地域活動に影響を及ぼしているため、町内にとどまらず広域的事業展開も検討していく必要がある。

【推進目標】

- 様々な体験活動を通じ、心身ともに健やかな成長を図る
- 社会性、協調性、自立性を養い、健全育成を図る

【主な施策】

- 親子のふれあいを高めるための事業展開
- 関係団体と連携した青少年活動の充実
- スポーツ活動の充実と少年団活動への支援
- 地域リーダー養成事業の推進
- ちびっこチャレンジ教室等の各種体験事業の充実
- 青少年期における読書活動の推進

3. 成人教育における現状課題と推進計画

【現状と課題】

職場や家庭、地域で中心的な役割を担う成人期は、家庭生活や仕事により学習機会の提供が難しい状況にある。人口減少が著しい現在こそ、成人を中心に地域づくりを進めていくことが求められ、さらに幅広い世代であるためそれぞれのニーズを的確に把握し、多くの人に参加しやすい環境づくりを行う必要がある。各種団体やサークルへの支援は継続して行うものの、潜在的な需要を引き出すためにも、様々な種類の学習の場を提供し、自己の教養を高め、地域づくりへの参加・協力を促進させていくことが重要である。

【推進目標】

- 自主的な学習活動の支援体制の促進
- 幅広い学習機会の提供

【主な施策】

- 団体、サークル活動の育成支援
- 各種社会教育事業の充実
- 関係機関との連携強化による事業展開
- 女性に対する学習・交流機会の充実

4. 高齢者教育における現状課題と推進計画

【現状と課題】

長い間進んできた高齢化は、全世代における高齢化率の上昇だけでなく、高齢者と言われる世代の中でも比較される新たなフェーズに突入した。また、新型コロナウイルス感染症の影響により人との関わりが希薄となった今、孤立を防ぎ地域づくりに参画できる機会を確保したり、豊富な人生経験で培った豊かな知識と技術を次世代に継承するための仕組みづくりが求められているため、健康を保持し、教養を深め、生涯にわたって学習できる環境づくりを行っていく必要がある。

【推進目標】

- 生きがいを高める学習機会の充実
- 社会参加と世代間交流の推進

【主な施策】

- いきいき学園大学で幅広い学習機会の提供
- レクリエーション・サークル活動の支援
- 知識や技術を活かした社会参加の推進

5. スポーツ振興における現状課題と推進計画

【現状と課題】

住民一人ひとりが生涯にわたり健康で明るく豊かな生活を営むため、日常生活にスポーツを取り入れ、生涯を通じてスポーツに親しむ環境が求められている。

スポーツ協会やスポーツ少年団、各種スポーツ団体においては、町内スポーツ振興の原動力として活動しているが、新型コロナウイルスや会員の高齢化により制限された中で活動を行っている。特に子ども達の中では様々な要因からスポーツをする子どもが年々減少しており、運動能力の低下が危惧されている。

今後は、年代に応じた各種スポーツ・レクリエーションの普及を図り、健康維持や体力向上のための機会を提供するなどスポーツ等の定着に努めていく必要がある。

【推進目標】

- 年代に応じたスポーツ活動の普及と支援
- 誰もが気軽に参加できる軽スポーツ・レクリエーションの普及と充実

【主な施策】

- 各種スポーツ団体との連携強化と支援
- スポーツ指導者の育成
- 軽スポーツ・レクリエーションの紹介と普及
- 健康維持や健康増進の機会を充実する

6. 芸術文化振興における現状課題と推進計画

【現状と課題】

文化活動サークルは一時的に新型コロナウイルスにより活動の停滞が見られたが、ようやく回復傾向にある。町民文化祭のように成果発表の機会を作ることで、参加者にとって意欲の維持向上に努めなければならない。そして、芸術文化鑑賞会や各種芸術文化講座を開催し誰もが文化活動に気軽に参加できる機会づくりを行うとともに、文化活動を行うサークル等の育成・支援を引き続き行っていく。また、本町の歴史や伝統文化を後世に伝承するため文化財の適切な保存と郷土芸能等の活動支援に努める。

【推進目標】

- 芸術文化の鑑賞と講座の提供
- 歴史的資料や各種文化財の保存整理

【主な施策】

- 郷土芸能を含む芸術文化団体の育成支援
- 芸術鑑賞会・講座の定期的な開催
- 文化財の保存保護と農業資料室の利用促進

7. 子ども読書活動における現状課題と推進計画

【現状と課題】

情報化社会の急速な進化によりインターネットやスマートフォンが普及し、利便性の向上がもたらされた反面、子ども達の日常にテレビゲーム等に過度に集中する環境が生じ、子ども達の成長に大きな影響を与えている。

読書活動は、「子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上でかくことのできないもの」(子どもの読書活動推進に関する法律より)であり、社会全体でその推進を図って

いく必要があるため、これまで実施してきた10か月の乳幼児を対象とした「ブックスタート事業」や各種事業との連携を強化し図書室利用促進できるよう努めていく必要がある。

【推進目標】

○子どもたちが自主的に読書活動を行うことができるよう「家庭」、「地域」、「学校」が連携し、読書活動に関する環境整備を図る。

【主な施策】

○家庭における読書活動の推進

- ・子どもの読書習慣の定着に向けた「家読」の取組の推進
- ・保護者による絵本や物語の読み聞かせ

○地域における読書活動の推進

- ・ブックスタート事業の充実
- ・子どもの読書活動に関するボランティア活動の場の提供や研修会の工夫
- ・「子ども読書の日」や「子ども読書週間」における事業の実施や情報提供

○学校等における読書活動の推進

- ・読み聞かせなどによる本に親しむ活動の充実
- ・「朝読書」における一斉読書の積極的な推進
- ・学校の教育活動全体を通じて多様な読書指導の展開

8. 生涯学習推進と社会教育指導体制について

○日々の情報収集、研修会の参加、各種助成事業等の積極的な活用などコーディネート能力を高め、また関係機関との連携を密にして住民ニーズに柔軟に対応した事業展開を図る。

○公民館、町農村環境改善センターを始めとした教育財産の有効利用を図り地域住民、各団体の学習活動、コミュニティ等活発な活動の拠点となるよう整備・取組を進める。

○学校・家庭・地域それぞれが連携して世代間交流を図り社会参加活動の推進に努めるとともに、地域人材の発掘・育成を図り、地域と学校の協働を通して青少年の学びの幅を広げる。

○少子高齢化や人口の減少により生涯各期に応じた町単独での事業展開が難しい状況になりつつある。これらの問題を解決するために近隣市町等と広域的な社会教育事業を模索する。

第7次雨竜町社会教育中期計画の施策の体系(令和5年度から5年間)

テーマ 「明るい未来を、描くマチ ～であい・まなびあい・よろこびあい・うりゅうの社会教育～」

- 基本的念頭項
- ともに学びの輪が広がる社会教育
 - 誰もがいつまでも学び続けることができる社会教育
 - 社会教育行政として学ぶ者への援助・協力・推進ができる社会教育

		領域						
区分		乳幼児教育	青少年教育	成人教育	高齢者教育	スポーツ振興 (全年齢層対象)	芸術文化振興 (全年齢層対象)	読書活動 (0～18歳)
推進目標	親子のふれあいを深め、安心して子育てができる環境づくり	親子のふれあいを深め、安心して子育てができる環境づくり	様々な体験活動を通じ、心身ともに健やかな成長を図る	自主的な学習活動の支援体制の促進	生きがいをもつ学習機会の充実	年代に応じたスポーツ活動の普及と支援	芸術文化の鑑賞と講座の提供	「家庭」「地域」「学校」との連携と環境整備
	豊かな心身の発達を促進	豊かな心身の発達を促進	社会性、協調性、自立性を養い、健全育成を図る	幅広い学習機会の提供	社会参加と世代間交流の推進	誰もが気軽に参加できる軽スポーツ・レクリエーションの普及	歴史的資料や各種文化財の保存整理	
主な施策	親子の遊び場の提供と親同士の交流支援	親子の遊び場の提供と親同士の交流支援	親子のふれあいを高めるための事業展開	団体、サークル活動の育成支援	いきいき学園大学で幅広い学習機会の提供	各種スポーツ団体との連携強化と支援	郷土芸能を含む芸術文化団体の育成支援	【家庭】 ・「家読」の推進 ・保護者による読み聞かせ
	ブックスタート事業を含めた乳幼児期における読書活動の推進	ブックスタート事業を含めた乳幼児期における読書活動の推進	関係団体と連携した青少年活動の充実	各種社会教育事業の充実	レクリエーション・サークル活動の支援	スポーツ指導者の育成	芸術鑑賞会・講座の定期的な開催	【地域】 ・ブックスタート事業の充実 ・読書活動に関する場の提供と情報提供
	ウッドスタート事業の継続と木育推進	ウッドスタート事業の継続と木育推進	スポーツ活動の充実と少年団活動への支援	関係機関との連携強化による事業展開	知識や技術を活かした社会参加の推進	軽スポーツ・レクリエーションの紹介と普及	文化財の保存保護と農業資料室の利用促進	【学校等】 ・読み聞かせの充実 ・朝読書の推進 ・読書指導の展開
	町保育園と連携したスポーツや芸術鑑賞等の事業展開	町保育園と連携したスポーツや芸術鑑賞等の事業展開	地域リーダー養成事業の推進	女性に対する学習・交流機会の充実		健康維持や健康増進の機会を充実する		
			ちびっこチャレンジ教室等の各種体験事業の充実					
			青少年期における読書活動の推進					

生涯学習推進と社会教育指導体制

日々の情報収集、研修会の参加、各種助成事業等の積極的な活用をなどコーディネート能力を高め、また関係機関との連携を密にして住民ニーズに柔軟に対応した事業展開を図る。

公民館、町農村環境改善センターを始めとした教育財産の有効利用を図り地域住民、各団体の学習活動、コミュニティ等活発な活動の拠点となるよう整備・取組を進める。

学校・家庭・地域それぞれが連携して世代間交流を図り社会参加活動の推進に努めるとともに、地域人材の発掘・育成を図り、地域と学校の協働を通して青少年の学びの幅を広げる。

少子高齢化や人口の減少により生涯各期に応じた町単独での事業展開が難しい状況になりつつある。これらの問題を解決するためには近隣市町等と広域的な社会教育事業を模索する。

A cluster of overlapping, semi-transparent geometric shapes in shades of blue, green, and red, located in the top-left corner of the page.

資料

A cluster of overlapping, semi-transparent geometric shapes in shades of gray, located in the bottom-right corner of the page.

雨 教 総 号
令和 4 年 6 月 1 日

雨竜町社会教育委員の会 委員長 様

雨竜町教育委員会
教育長 糸 谷 尚 徳

第 7 次雨竜町社会教育中期計画の策定について（諮問）

日頃より本町の社会教育事業推進にご理解とご協力を賜わり厚く御礼申し上げます。
本町においては、「自らの意志で学び続ける」という生涯学習の理念のもと、乳幼児から高齢者までの社会教育事業を実施することを中心として社会教育を推進しております。

これまで、平成 30 年度に策定した第 6 次雨竜町社会教育中期計画（平成 30 年度～令和 4 年度）に基づき、本町の乳幼児から高齢者までを対象とした社会教育事業を実施することで、多くの町民にとって日常生活の一部となって親しまれている状況であります。

このたび第 6 次雨竜町社会教育中期計画が終了することに伴い、新たな計画を策定することにより、人も地域社会もいきいきと輝けるような生涯学習社会を推進していきたいと考えています。

そのようなことから、雨竜町としての社会教育を推進する上で社会教育中期計画は必要不可欠なものと考え、第 7 次雨竜町社会教育中期計画（令和 5 年度～令和 9 年度）の策定について諮問致します。

雨 教 社 号
令和 5 年 3 月 2 7 日

雨竜町教育委員会
教育長 糸 谷 尚 徳 様

雨竜町社会教育委員の会
委員長 池 田 弘 一

第 7 次雨竜町社会教育中期計画の策定について（答申）

令和 4 年 6 月 1 日付で諮問されました第 7 次雨竜町社会教育中期計画の策定につきましては、本答申は雨竜町民信条や雨竜町社会教育目標を踏まえ、雨竜町振興基本計画との整合性を図り、第 6 次雨竜町社会教育中期計画（平成 3 0 年度～令和 4 年度）の反省・評価をもとに、本町における社会教育の現状分析・地域課題を明らかにし、目標達成に向けた施策について社会教育委員の会議の中で慎重に審議を重ね、その結果を本答申としてまとめたものであります。

今後の本町における社会教育推進にあたっては、本答申の趣旨を十分に生かされ住民ニーズに対応した社会教育がさらに発展し、人も地域社会もいきいきと未来に輝ける生涯学習社会の構築に推進されますことを期待致します。

第7次雨竜町社会教育中期計画策定経過

令和 4年 6月 1日	教育委員会より社会教育委員の会に諮問
令和 4年 6月 1日	事務局協議 第6次中期計画反省評価の現状課題の確認
令和 4年 6月 1日	社会教育委員の会議 第6次中期計画反省評価の現状課題を協議
令和 5年 3月15日	事務局協議 第7次中期計画の内容検討と原案作成
令和 5年 3月27日	社会教育委員の会議 第7次中期計画の原案協議・決定
令和 5年 3月27日	社会教育委員の会より教育委員会に答申

第7次雨竜町社会教育中期計画策定委員名簿

【 策定委員 : 雨竜町社会教育委員 】

委員長 池田 弘一

副委員長 高田 すみれ

委員 長谷部 朋

委員 長沢 昭恵

委員 村本 公志

委員 大熊 裕章

委員 清水 一伸

委員 酒井 美恵子

【 事務局 : 雨竜町教育委員会 】

教育課長 先名 輝彦

教育課教育担当主幹 北川 忠

教育課教育担当主査 滝川 裕美子

教育課教育担当主査 工藤 祐馬

教育課教育担当主事 鈴木 千尋